

病害虫発生予察指導情報 (スイカうどんこ病)

令和3年6月4日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

5月28日現在、スイカうどんこ病(写真1)の発生が例年より早く確認されています。また、現地ほ場では多発園も確認されています。ほ場を観察し、発生園では防除を徹底してください。



写真1 うどんこ病罹病葉

2 情報の根拠

(1) 5月28日現在、スイカうどんこ病の発生ほ場率は14.5%(前年:0.0%、H27~30平均:0.0%)、平均発病度は0.06(前年:0.0、H27~30平均:0.0)と前年より発生時期はやや早く、発生量は平年並である。

*5月28日に巡回調査を実施。北栄町5ほ場、倉吉市2ほ場の計7ほ場、25株/ほ場の見取り調査。

(2) 本病は、25℃付近が発病適温で、やや乾燥気味の好適条件下で孢子発芽する。飛散した孢子がふたたび分生子を形成するまでには5日程度要する。現在のほ場での発生状況および向こう1か月の気象予報から、本病の発生量はやや多いと予想される。

3 防除上注意すべき事項

(1) ほ場内をよく観察し、表1に示す薬剤を発病前から予防的に防除する。薬剤耐性菌対策のため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

(2) 発生量が多いほ場では、速やかに治療効果の高いSDHI(RACコードF:7)、QoI(同F:11)、DMI(同F:3)系統の薬剤を5~7日おきに2~3回散布する。進展が抑えられたら、その後はそれら以外の系統も併用し7~10日おきに散布する。

表1 防除薬剤一覧(農薬の登録内容は令和3年6月4日現在)

RACコード*	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
F:3	トリフミン水和剤	3,000~5,000倍	収穫前日まで	5回以内
F:11	ストロビーフロアブル	2,000~3,000倍	収穫前日まで	3回以内
F:7、F:11	シグナムWDG	1,500~2,000倍	収穫前日まで	3回以内
F:7	パレード20フロアブル	2,000~4,000倍	収穫前日まで	3回以内
F:7	アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
F:M07	ベルコートフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	4回以内
F:50	プロパティフロアブル	3,000~4,000倍	収穫前日まで	3回以内
F:U13、F:9	ショウチノスケフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
F:M07、F:19	ポリベリン水和剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	4回以内
F:M10、I:UN	パルミノ	2,000倍	収穫3日前まで	5回以内

*RACコード:同じ作用グループの農薬をコード番号で分類したもの。殺虫剤(アルファベット:I)、殺菌剤(同:F)、除草剤(同:H)ごとにグループ分けされており、抵抗性発達を回避するため同一のコードの使用を避ける。